

# J A 自己改革推進レポートについて

令和 3 年 3 月 2 3 日  
J A 鳥 取 県 中 央 会

## 1. J A 自己改革実践状況

### (1) J A グループ鳥取の取り組み

#### 鳥取県協同組合連絡協議会の更なる連携強化

鳥取県協同組合連絡協議会（生協・漁協・森連・労金・J A）は2月19日の協議会幹事会において、令和3年4月1日より新たに日本労働者協同組合（ワーカーズコープ）連合会センター事業団山陰開発本部が同協議会構成団体に加入する方向で協議した。その後、新型コロナウイルス感染防止の観点から書面による委員会決議が行われ、加入が決定した。今後、同じ協同組合組織の仲間として一緒に活動していく。これを機に更なる協同組合間の活動や事業において積極的に取り組んでいく。

昨年は新型コロナウイルス感染拡大の影響を受け、「国際協同組合デー記念集会第30回鳥取県の集い」の実施が見送られたが、令和3年度は「第30回鳥取県の集い」を7月6日にWEB開催で行うことを決定した。

また、令和3年度の新たな取り組みとして「協同組合学習会」を開き、協同組合組織で働く者同士がグループワーク形式で協同組合理念を学び、仲間づくりを通して更なる協同組合間連携の強化を目指していく。

### (2) J A 鳥取いなばの取り組み

#### ① 支店行動計画実績発表会

J A 鳥取いなばは2月18日に、令和2年度支店行動計画実績発表会を鳥取市の本店で開いた。

同J Aは、自己改革の一環で平成23年から支店行動計画を始め、組合員・地域の利用者にとって「J Aがここよりどころ」となれるよう役職員が意識を高め、毎年様々な活動を展開している。

発表会には、J A 役職員のほか、支店行動計画に協力した女性会や青壮年部などから約50人が参加した。表彰式では、優秀賞に岩美支店、国府支店、用瀬支店、せんだい支店、智頭支店が選ばれた。



#### ② 福部産らっきょうWEB事前販売打ち合わせ会

福部支店は2月24日、東京青果との令和3年産福部産らっきょうWEB事前販売打ち合わせ会を、同支店らっきょう加工センターで開いた。同打ち合わせ会でWEB会議を用いるのは今回が初となった。

打ち合わせ会では、現在の生育状況、他産地の状況、量販店・スーパー・生協・加工業者の動向、



ふくべ砂丘らっきょうの販売方針・産地への要望など情報交換が行われた。

### ③ シイタケ植菌体験

八頭地区椎茸生産振興会と J A 鳥取いなば営農指導センターは 2 月 25 日、鳥取市河原町の市立散岐小学校で原木シイタケの植菌体験を開いた。1 年生 16 人がクヌギの原木に、県産シイタケのブランドである「菌興 115 号」を植菌した。

植菌作業では、児童が原木 2 本ずつを担当し、肉厚で大型になる「菌興 115 号」の駒菌をかなづちで打ち込んだ。児童は、同会の前田会長の補助を受けて電動ドリルを操作し、1mほどの原木に穴を開ける体験も行った。



### ④ アスパラ播種作業がスタート

J A 鳥取いなばは 2 月 18 日、鳥取市の育苗センターでアスパラガスの播種作業を始めた。生産者から苗注文を受け、J A 職員らが育苗箱に専用の紙ポットをセットして播種し、良質な苗作りに取り組んだ。

育苗した苗は、3 月中旬まで管理し、定植時期に併せて生産者に随時引き渡す。



## (3) J A 鳥取中央の取り組み

### ① 琴浦ブロッコリー生産部が 2 年連続で販売金額 4 億円を突破！

琴浦ブロッコリー生産部は 2 年連続で目標金額 4 億円を突破し、過去最高の出荷量 20 万 506 箱（1 箱 6 kg）を記録した。

令和 2 年産は、春・初夏ブロッコリーが年明け以降の暖冬でロスもなく計画以上の出荷が続き、1 月から 7 月末の上半期の出荷量は前年を 7% 上回る 12 万 1,162 箱（同）と上半期で過去最高を記録した。年末には降雪被害があったが、生産者の栽培努力により、年間を通しての販売金額は 4 億 1,300 万円と大台の 4 億円突破につながった。



2 月 3 日に琴浦町で開いた総会では、生産拡大に尽力した奨励賞として福本さん、優秀賞として手嶋さん、語堂さん、財賀靖洋さん、藤吉さん、小前さん、Earth grace（株）、財賀敏昭さん、金屋ブロッコリー組合、松田さんに表彰状を贈呈した。

また、時期別、適正品種の検討による品質の向上、補助事業の活用などによる面積拡大を図り、継続出荷により市場から信頼される産地を築いていくことを全体で確認した。令和 3 年産は新規就農者などで 6 人増え、80 人の農家が前年を 32ha 上回る 180ha で栽培し、24 万箱（同）、5 億 400 万円の出荷、販売の目標に向かって取り組んでいく。

同部会の寺岡部会長は「マスコットキャラクターのロコトやSNSなども活用し販売面も強化していくとともに、今年もおいしいブロッコリーを消費者に届けていき、目標の5億円を目指していく」と意気込みを話した。

## ② 畜産部門でRPA導入！ 農家訪問の時間確保

J A鳥取中央は、NTTグループが開発したロボティック・プロセス・オートメーション（RPA）システム「WinActor」を令和2年2月に導入し、事業効率化を進める事で、畜産部門の事務作業を年間約20時間短縮した。

畜産は同J Aの販売高の約2割を占めており、定型業務の自動化に必要なシナリオは同J Aが独自に作成した。作業の最適化、正確性の向上で単純作業を減らし、生産現場への訪問などに充てる時間を確保することで組合員サービスの向上につなげている。

畜産課の職員は「自動化で確認作業に時間をかけることができ、ミスも減った」と話す。シナリオ作成を担当した企画リスク管理課は「光学式読み取り装置（OCR）も併用できれば、さらに20時間を短縮できる」と一層の効率化に意欲を見せている。

## ③ コロナ状況下こそ「居場所」を！

### 休止検討も運営継続・愛情込め安全提供する子ども食堂「ほっとここ」

J A鳥取中央は、旬の農畜産物や直売所で使用できる農畜産物引換券の贈呈など、継続的に子ども食堂への食材支援に取り組んでいる。

平成28年にオープンして今年で5年目を迎える倉吉市子ども食堂「ほっとここ」は、子どもから高齢者までが食事や学習を通じて交流できるコミュニティスペースを目指している。安価でおいしい料理を提供して幅広い年代が利用できるように11時30分から20時まで運営しており、会社帰りの大人からも好評である。

新型コロナウイルスの影響で一時は活動休止も考えたが、利用者から要望も多く、滞在時間の制限、消毒や検温などの徹底、持ち帰り用の弁当を提供することで運営を続けている。

コロナ状況下で弁当の持ち帰りを利用する人も増え、「ほっとここ」代表の田中さんは「自宅でもお弁当を食べながら家族団らんのきっかけにしてほしい」と思いを込め、また、「この場所を頼りにしている人は多い。コロナ対策を取りながら運営を続けている。食事を通して自然と交流できる場をつくり、未来ある子ども一人ひとりを大事に地域で育てたい」と笑顔で話す。

同J Aは、地域貢献、さらに食農教育の意味も込め地元産中心の食材にこだわり、具だくさんの季節感あるメニューを作って運営してもらうため、引き続き子ども食堂への支援に取り組んでいく。



## (4) J A 鳥取西部の取り組み

### ① 営農指導員が取り組み成果を発表

J A 鳥取西部は2月3日、本所で令和2年度営農部・営農指導員による取り組み研究課題等成果発表会を開催した。営農指導員の資質向上と地域営農の振興を図ることを目的に実施し、今回で9回目となる。

各営農センターと営農部の職員8人が、日々の営農指導で感じた担当地区の課題や問題点について新たな発想をもって取り組んだ研究の成果を、15分間の持ち時間で発表した。

同J Aからは南部伯耆営農センターの金明主任が代表に選ばれ、2月12日のJ Aグループ鳥取 県下営農指導事業成果発表会に出場し、優秀賞に輝いた。



### ② 大山ブロッコリー産地メッセージ動画で届ける

J A 鳥取西部大山ブロッコリー料理研究会は2月5日、3月6日開催の「第25回産直虹のつどい」に向けた約2分間の動画メッセージを撮影した。

「産直虹のつどい」は消費者や生産者が集う、鳥取県生協主催のイベントである。イベントでの産直周年産地からの報告や動画メッセージは、YouTubeなどで3月15日以降に配信される予定。



### ③ リモートで白ねぎ取引協議会開催

J A 鳥取西部と鳥取県白ねぎ改良協議会は2月18日、同J A本所でJ A全農とつとりや取引市場14社をリモートで繋ぎ、令和3年度白ねぎ取引協議会を開催した。

協議会では令和2年産白ねぎの生育状況や販売状況、市場情勢などの報告を行った。また、令和2年度の雪害に係る秋冬ねぎと春ねぎの出荷時期と期間、令和3年産白ねぎの生産販売計画や生産振興方策について承認した。



## (5) JA全農ととりの取り組み

### 鳥取県農協青壮年連盟・鳥取県農業法人協会との意見交換会を開催

2月24日、3月5日の両日に鳥取県農協青壮年連盟、鳥取県農業法人協会との意見交換会を開催した。JA全農ととりからは販売事業を中心に事業取り組み紹介や情報提供、県内農産物のブランド化についての説明等を行った。

出席者からは系統事業に対する質問・要望、生産現場での課題等をいただき、活発な意見が交わされた。いただいた意見や課題、ニーズに一つでも多く応えていくことで、今まで以上に系統事業への理解とともに信頼を深めていく。



鳥取県農協青壮年連盟との意見交換



鳥取県農業法人協会との意見交換

## (6) JA鳥取信連の取り組み

### JAマイカーローン特別金利キャンペーン

JAマイカーローンは、住宅ローンに次ぐJAバンクローンの主力商品であり、次世代対策や生活メイン化の入口として積極的な取り組みが必要な商品である。

JAバンク鳥取では、令和3年2月1日から10月31日までの9ヵ月間をローン残高純増ならびに若年層を中心とした顧客基盤の拡充期間と位置づけ、「JAマイカーローン特別金利キャンペーン」として取り組んでいる。

マイカーローン等の小口ローン推進は、窓口におけるチラシ等を活用したキャンペーンやJAネットローンの紹介等、いわゆる「ひと声セールス」が効果的であるため、JASTEM等を通じて情報収集し、ローンニーズが見込まれる利用者に対して必ず声かけを行い、一人でも多くの利用者に満足いただけるよう取り組んでいく。



(※)JA鳥取いなばでは、期間を定めた“特別金利キャンペーン”は未実施。

## (7) J A 共済連鳥取の取り組み

### 推進・保全面における J A 共済満足度調査結果について

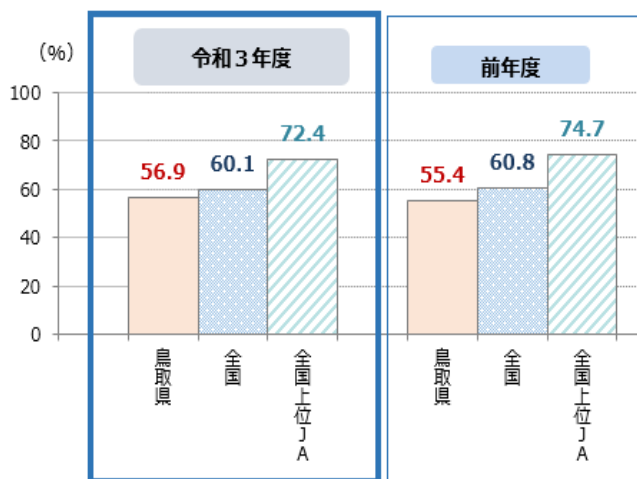
J A 共済では、事業理念を実現していくためには利用者満足度が重要と考え、平成 29 年より推進・保全面における満足度調査を、3Q 訪問、新契約、異動手続、共済金支払など 7 項目を設定して実施している。

直近 1 月末の総合満足度は 56.9% と全国平均と比較して 3.2 ポイント低い結果となっているが、昨年より 1.5 ポイント上昇しており、引き続き、改善に向けて「利用者からの質問に対し、迅速・正確な対応」を心がけるとともに、「わかりやすい説明」を意識して取り組んでいる。

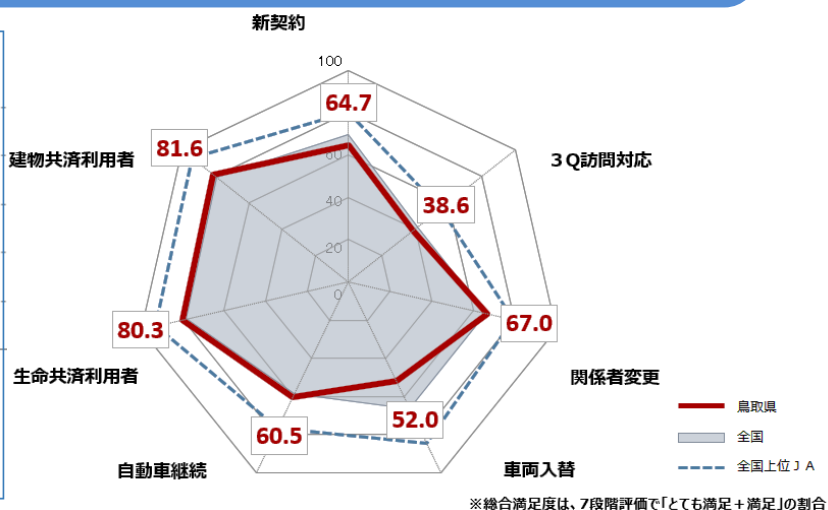
この調査結果は、毎月 J A に報告し、利用者の満足度向上への意識付けと課題に対する改善の取り組みにつなげており、今後とも、より利用者の視点に立った事業展開を推し進めていく。

(令和 2 年 4 月～令和 3 年 1 月)

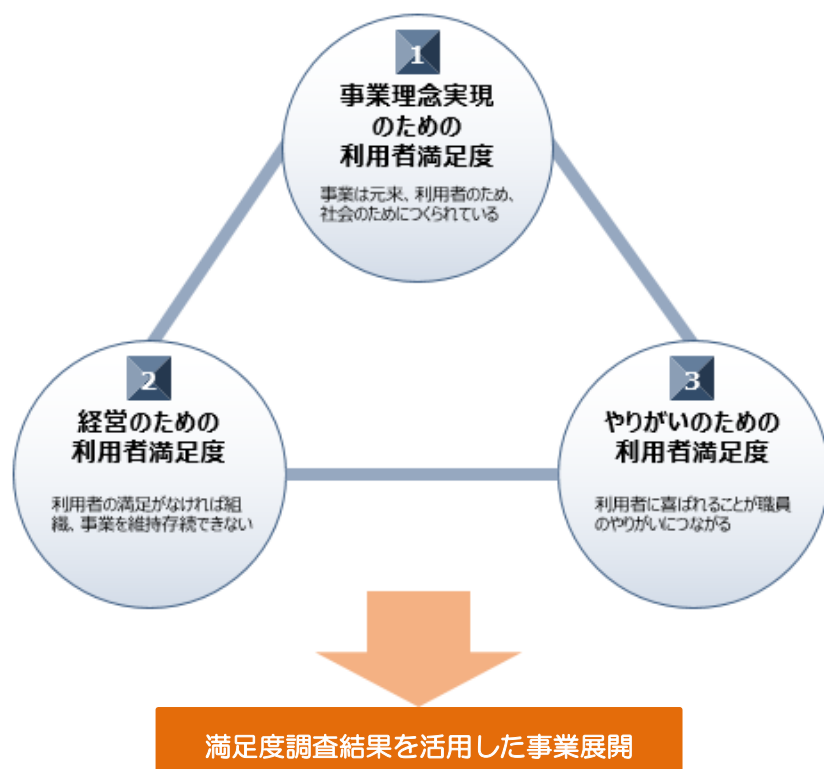
#### 【推進・保全面における総合満足度】 (全利用者)



#### 【鳥取県の総合評価 (各プロセス利用者)】



#### 【利用者満足度の必要性と目指すべき姿】



先の厳しい環境変化に対応し、経営を継続的に行っていくために、事業量を維持・拡大していくことが求められ、そして、組織で働く職員がやりがいを持ち、満足して事業活動を展開していくためにも、利用者の喜びの声、満足した姿、つまり利用者満足度が重要であり、そのためにも、満足度調査結果を活用した事業展開に取り組む必要がある。

## (8) JA鳥取県中央会の取り組み

### 「イクボス・ファミボス」宣言と「鳥取県家庭教育推進協力企業制度」を締結

JA鳥取県中央会は、鳥取県が認定する「イクボス・ファミボス」宣言を行うとともに、鳥取県教育委員会が認定する「鳥取県家庭教育推進協力企業制度」の協定を結び、誰もが働きやすい職場に取り組んでいく。

「イクボス・ファミボス」は、子育てや介護をしながら働き続けられる職場環境づくりを担い、部下の家庭と仕事の両立を応援する、ワーク・ライフ・バランス実践リーダーのことである。

宣言では、職場全体に「イクボス・ファミボス」の取り組みを浸透させることで、男女がともに働きやすい職場づくりを進め、職員の意欲と職場の力を向上させることや、自ら率先して仕事を充実させるとともに家庭や地域で積極的な役割を果たし、ワーク・ライフ・バランスを実践していくことなどを掲げた。

「鳥取県家庭教育推進協力企業制度」は、企業と県が協定を結び、子どもたちの健やかな成長を応援する取り組みで、園や学校行事への参加促進や子育てや教育に関する機会への参加に対する休暇の優先取得などに取り組んでいく。

中央会の坂根参事は「今回の宣言と協定をきっかけに、いっそう働きやすい職場になるように周知に努め、取り組みを進めていきたい」と話した。



以上